

## 結露

暖かい空気中に含まれている水蒸気が、冷たいものの表面に触れることによって水滴が生じる現象が結露です。

例えば、冬の電車のガラス窓が曇ってしまうのもこのため。この現象が、住まいの中でも起こります。

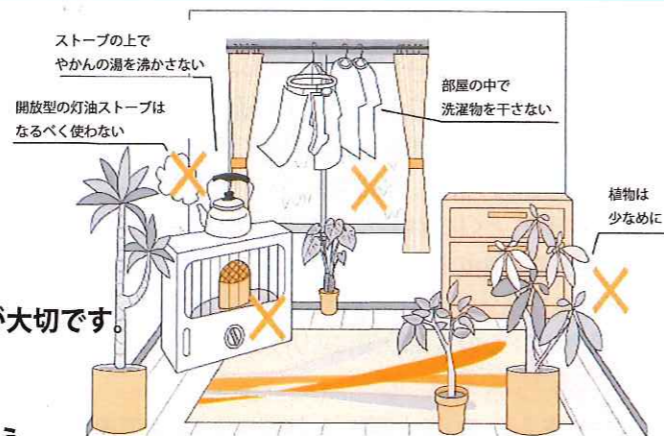
結露による水分は、木材の強度と耐久性を損なうことにつながるため、注意が必要です。

### 表面結露

- ・湿気を含んだ暖かい空気が冷えた壁や窓ガラスなどに接して、空気中の水蒸気が水滴に戻り、窓などの開口部壁、押入れなどの表面にできます。放置するとシミ、カビの原因になり、家具などの汚損にもつながります。

### 日常のご注意

- ・水蒸気の発生をできるだけ抑えてください。
- ・通気、換気を心がけましょう。
- ・各部屋の温度差をできるだけ少なくしましょう。



### 表面結露を防ぐ住まい方

こまめな換気と、水蒸気をなるべく発生させないことが大切です。

#### ● 居室

- ・洗濯物を室内に干すことは、できるだけ避けましょう。  
※洗濯物が乾くときに多量の水蒸気が発生します。やむを得ない時は、エアコンで除湿したり窓を開けて水蒸気を外に逃がします。
- ・冬場の閉め切った部屋に大人数集まるときは、十分に換気をしましょう。  
※相当の水蒸気が発生します。鍋ものなどする時は、特に注意が必要です。
- ・窓ガラスやサッシのアルミ部分に水滴がついているようなときは、こまめに拭き取りましょう。
- ・タンスなどの家具をおく場合は、壁から5～10cm離して通風を心がけましょう。特に結露しやすい外壁側には、なるべく家具をレイアウトしないようにする。
- ・結露はシミの原因になります。日頃から壁にシミがないかよく気をつけてください。
- ・窓サッシとカーテンの間の換気にも気をつけましょう。
- ・早朝は温度が下がり、結露が生じやすいため、寝る前に一度窓を開けて換気しましょう。
- ・除湿機を使えば確実に、効率的に湿度調節ができます。特に窓の結露を拭き取った後スイッチを入れておくと、部屋全体の湿気を取ってくれます。

#### ● バスルーム

- ・入浴中はもちろん、入浴後もしばらく換気して、天井や壁などの水滴が残らないようにしましょう。
- ・戸はいつも閉めて、他の部屋に湿気をもらさないようにします。

#### ● 押入れ・クローゼット

- ・頻りに戸を開けて換気をします。
- ・内部の空気がよどみがちなので、すのこを壁と床に置き空気の循環を浴しましょう。
- ・布団や衣類が直接壁や床にふれないようにします。
- ・通気を確保するために、荷物や衣類を詰め込みすぎないようにしましょう。



## 火災予防

火災予防運動とは、毎年、火災が発生しやすい時季を迎えるにあたり、火災の発生を防止することを目的とした運動のことを言います。一般的には消防庁が制定する全国火災予防運動を指します。

全国火災予防運動の開催時期は、秋季は11月9日～11月15日までの7日間となっています。

また、秋の全国火災予防運動の初日である11月9日は「119番の日」となっていて、消防の仕事や119番についての正しい知識と理解を深める日となっています。火災予防運動とあわせて、防災意識を高める日として啓発活動が行われます。

### 住宅防火いのちを守る7つのポイント

#### ● 3つの習慣

- ・寝たばこは、絶対やめる。
- ・ストーブは、燃えやすいものから離れた位置で使用する。
- ・ガスこんろなどのそばを離れるときは、必ず火を消す。

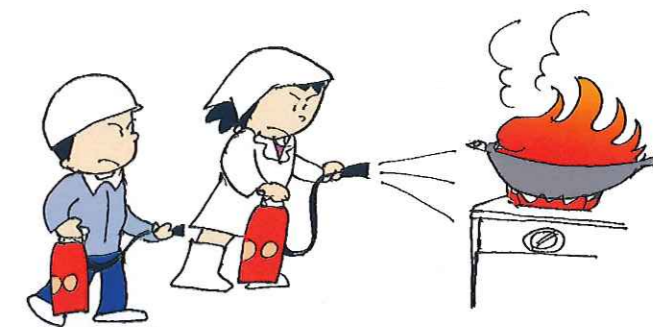
#### ● 4つの対策

- ・逃げ遅れを防ぐために、住宅用火災警報器を設置する。
- ・寝具、衣類及びカーテンからの火災を防ぐために、防災品を使用する。
- ・火災を小さいうちに消すために、住宅用消火器等を設置する。
- ・お年寄りや身体の不自由な人を守るために、隣近所の協力体制をつくる。



### 火災予防の10つのポイント

- ・家の周りに燃えやすいものを置かない。(放火防止のため)
- ・調理中に火の元を離れる際には、必ず火を消す。
- ・火の元の近くに燃えやすいものを置かない。
- ・火遊びしない。
- ・お年寄りや病気の、幼児だけを残して外出しない。
- ・就寝前には必ず火の元を確かめる。
- ・寝たばこをしない、させない。
- ・寝具は出来るだけ防災製品を使う。
- ・住宅用火災警報器(報知器)を設置する。
- ・逃げる道は方向の違う2つ以上のルートを決めておく。



もしも火災が発生してしまった場合は、あわてず、落ち着いて次の「火災発生時の10つのポイント」を心がけましょう。

### 火災発生時の10つのポイント

- ・「火事だ」と大声で叫び、周りの人に協力を求める。
- ・小さな火事でもすぐに119番通報する。
- ・出火から3分以内に消火器で消火する。
- ・消火することが無理だと思ったらすばやく避難する。
- ・服装や持ち物にこだわらず出来るだけ早く避難する。
- ・姿勢を低くしハンカチやタオルを口と鼻に当て、煙を吸わないようにする。
- ・避難する際には部屋のドアを閉めて、空気を絶つ。
- ・エレベータは使わない。
- ・いったん外へ逃げたら中へは戻らない。
- ・逃げ遅れた人がいるときは、近くの消防隊に知らせる。



### 携帯電話からの119番通報

携帯電話で119番通報すると、電波を中継するアンテナの位置によって、異なる管轄の消防本部へ繋がることがあります。119番通報をするときには、下記の点に気をつけましょう。

- ・通報している市町村名、住所を確認する
- ・近くの目標物を確認する。
- ・通報後も携帯電話の電源を切らない。(確認のため消防から連絡する場合があります。)

